

第27回MQI発表大会

2022年度MQI統一主題

価値観の転換-守るものと、変えるもの-

会場参加者 122人 (院内118人、院外4人)
ZOOM参加者 77人 (院内58人、院外19人)

ご参加いただき、ありがとうございました！！



発行 (公財) 練馬総合病院MQI推進委員会
〒176-8530 練馬区旭丘1-24-1
Tel.03-5988-2200 (代)

第27回MQI活動発表大会を終えて

理事長・院長MQI推進委員会委員長 柳川 達生



第27回発表大会は、令和4年12月3日に地下講堂とWebとのハイブリッド方式にて開催いたしました。多くの方々にご参加いただき感謝申し上げます。今回の統一主題は「価値観の転換-守るものと、変えるもの-」でした。社会情勢は大きく変化しています。継続して守るべき業務か、価値観を転換させて業務内容、手順を変えていくべきか常に見極める必要があります。変えるべき業務をかえなければ組織の発展はありません。今回の発表大会を踏まえ、活動チームだけでなく、統一主題の視点で業務、改善活動

に取り組んだか振り返り、今後にかすようにしましょう。多部署がかかわる業務を変えることはなかなか困難です。慣れ親しんだ業務がたとえ効率的でなくとも、“変えよう”という行動にはなりにくいのが現状です。そこを後押しするのが組織をあげておこなうMQIです。当院の存在価値を高め、更に発展させていくためには職員が力をあわせることが必要です。MQIは業務を改善させるとともに組織を発展させる人材育成の場でもあります。活動は大変ですが当院にはなくてはならないものです。今回自主的に委員会をたちあげた排尿ケアチームが活動内容を報告してくれました。このような自主的改善活動が今後さらに活発に行われることを期待します。第28回大会では今回の問題点を踏まえさらに発展させるようにしていきましょう。

特別講演「患者の意向がより尊重される医療にむけて-共同医師決定と倫理コンサルテーション

独立行政法人国立病委員機構東京医療センター

総合内科 医長 尾藤 誠司先生



実臨床における治療方針決定の際に、今では当たり前のように行われるインフォームドコンセント (IC) ですが、その誤解・問題点についてわかりやすく教えていただきました。まず、ICの4つのステップ、すなわち患者の同意能力・環境整備、説明、理解、同意・拒否、のうち2番目の説明のみがなされがちであること、その説明も専門的になりすぎ、患者さんに必要な情報・選択肢にしばってわかりやすく話せていない場合が多いとのことで、私自身も忙しさを理由に環境の整備や理解の確認が十分でないことを改めて認識しました。さらに、一つの治療法を患者に良かれと思って押し付けるパターンリズム、選択肢を提示するのみで最終決定を患者に丸投げする情報提供者モデルという一見すると正反対のスタイルが共通して対話・相談が欠如しており、望ましくないことを例をあげてわかりやすくご説明いただきました。超高齢者社会を迎え、終末期医療を含めた不確定要素・エビデンスの乏しい分野では特に、対話・相談のプロセスを重視したShared decision making (共同意思決定) が必要であることを楽しくご説明いただきました。

ご講演後、アドバンス・ケア・プランニング (ACP) における工夫について栗原先生より質問があり、他職種で異なる視点からの議論を重ねることにより良い方向がみつかりやすいこと、限られた時間で共同意思決定を行う工夫について大島先生より質問があり、病気の一般的な説明については説明用の冊子・動画を活用する、対話の部分に注力すること、永井先生のご質問に応える形で、欧米とは異なる我が国独自のメンタリティーに合った対応も必要となるなどの示唆をいただきました。

文責：内科 東 宏一郎

参加チームからひとこと



活動主体部署	リハビリテーション科
テーマ	当院職員の健康づくり
チームリーダー	監崎 光希

本活動で印象に残っていることは、MQI活動内で非効率的な慣習があることでした。このチームでは、その慣習を変えてできる限り効率的に活動することもテーマとしました。アンケート手法など多くの点で効率化を図れたと思います。今後は、安全衛生委員会が活動を引き継ぎますが、3年後・5年後にこの活動は化けているのではないかと思います。



活動主体部署	紙削減有志チーム
テーマ	職員用の紙及び労力の削減
チームリーダー	大島暢（発表者：宮本 麻耶加）

今回、院内有志チームによる紙削減および業務負担軽減の取り組みが、最優秀賞の評価をいただくこととなり大変光栄に思います。本案件は、情報システム委員会に引き継ぎますが、今後タブレット端末の導入や院内ネットワーク環境の強化などが予定されており、更なる業務改善、利便性の向上に期待しています。最後にこの取り組みが結実したのも、一重に皆様のご協力あつてのことで、改めて職員の皆様1人1人に感謝申し上げます。ありがとうございました。



活動主体部署	事務部
テーマ	倉庫を整理して物品収納を円滑にする
チームリーダー	北村智弥

推進委員の方々・チームメンバーのご尽力により、何とか発表することができました。破棄については継続可能な仕組みを構築することがおかげさまでできました。今後は保管の仕組みを構築して、倉庫の物品数を減らしながら、管理を円滑にできるよう引き続き取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



活動主体部署	臨床検査科
テーマ	検査科受付業務の効率化
チームリーダー	小宮山海渡

電話問い合わせ先の変更により検査科受付業務の効率化が実現できました。診察日前検査については対象者が少なく大きな効果は得られませんでした。採血待ち時間の短縮と、診察待ち時間の短縮に有用であると考えています。仕組み構築や運用の実施に協力いただいたメンバーに感謝申し上げます。ありがとうございました。



活動主体部署	看護部
テーマ	身体抑制開始後の評価を見直し、解除を目指す
チームリーダー	曾根菜津子

今回の活動を通して、多職種との連携の難しさや情報共有の大切さを実感しました。数時間でも抑制を解除できたことは、現場で働いている私たちにとっては大きな効果であり大きな第一歩であると感じています。皆様のご協力がありこのような効果確認ができたと思います。ありがとうございました。抑制解除に向けて病院全体で取り組んでいくことが求められるので、今後ともご協力をお願いします。



当院の改善事例紹介	排尿ケアチーム
テーマ	排尿ケアチームの活動内容の報告
チームリーダー	江崎太佑

当院で排尿ケアチームが活動を開始してから2年になります。今回はその間の活動内容に関して発表させていただきました。排尿ケアチームの発足後、以前よりも多くの入院患者さんが尿道カテーテルから離脱できている可能性についても報告しました。今後も、入院患者さんが排尿自立を獲得できるように、積極的に活動していきます。排尿ケアチームへのご協力を、引き続きよろしくお願いいたします。

審査員より各チームへひとこと

	良かった点	今後の課題と思われる点・ご意見・ご感想 など
<p>★リハビリテーション科</p> <p>『当院職員の健康づくり』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の健康を考えた視点が新鮮だった ・病院全体としての新たなニーズ・予防・健康向上という壮大なテーマに取り組んだ点 ・コメディックスでの動画配信は画期的な取り組みであり、病院全体の一体感が高まった活動だった ・関係者が積極的に、更に楽しみながら活動していたことが伝わってきた ・職員の健康に対する意識を変えていく一歩となった ・身近なところからの問題意識から端を発し、組織全体に広げ、成果を上げ、今後更に発展拡大の突破口となる活動だった ・目標設定の上で事前調査が行われていることを評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として大きな成果がみられたことは確認されましたが、部署毎の特徴、受け止めの違いなど大きい。双方向性の取り組みとする上で、部署毎のサポータ作りや対面指導の併用など今後検討してもらいたい ・安全衛生委員会のみでは継続は困難なので協力して下さい ・健康改善プロジェクトはすぐに高い効果が上がらないはず。今回はかなり高い効果が確認できているのは、今回の取り組みと効果測定事項の因果関係が不明確であったためと思われる ・開始直ぐのデータと後半のデータではかなり「n」の数値に差がありました。この点について分析が必要 ・始めに対策ありきであるような気がする
<p>★紙削減有志チーム</p> <p>『職員用の紙及び労力の削減』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・院内の意識を根本的に変えることが出来たことは、驚きの前進だった ・紙量が多いという長年の課題・ニーズに取り組み、紙削減の意識改革と具体的な代替案・改善案を示したことや、アンケートの電子化により作業効率を大幅に短縮した点を評価 ・取り上げ方によっては、「ペーパーレス」など言ういつまでも実現しないテーマを具体的な課題として的を絞り、成果を上げた ・会議のあり方に対する意識が改革された素晴らしい活動だった ・活動の展開方法（発表内容）はMQI活動のモデルケース ・アンケートにフォーカスしたこと、業務量評価を行ったことを評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善のための電子化への取り組みも今後お願いしたい ・有志チームの活動であり、チーム解散後も継続した活動とするために、各種の決め事を管理する主体部署を明確にするという点ではないか ・歯止め標準化にある庶務課は、依頼されたアンケート等で業務が増えたかどうか、分からない ・紙を使用するメリットに対する分析や提案があってもよかった ・全体的な現在の紙→デジタル化の流れが可視化されていればよかった ・会議や資料そのもののあり方が問われるような問題提起を含んだ活動 ・患者満足度調査もぜひペーパーレスに、QRコードを利用すると便利です
<p>★事務部</p> <p>『倉庫を整理して物品収納を円滑にする』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・15年来の問題点であった、倉庫整理に着手した点は評価できる ・数々の困難を乗り越えて、倉庫整理の前段階に着手できたことは大きな成果だった ・非常に大きなテーマで難しいテーマによく取り組んだと思う ・今回は、多くの議論を経て、廃棄物の処理の流れを再整理し、仕組みを再整備し、運用につなげたことは、大きな一歩だった ・廃棄の仕組みはインフラ整備と同じ効果をもたらすため、今後の課題への取り組みに確実につながる活動だと思う ・地道な業務であるが、確実に成果が上がっている ・直面した問題に向き合い、他部署から見えにくい課題を正面から取り上げ成果を上げた点を評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・倉庫整理までの道のりははるか遠いため、次年度も継続してこの問題に取り組み、倉庫も部署ごとに整理整頓されて、いつでも必要な物品を取り出せるようにお願いしたい ・倉庫整理がテーマで、倉庫の中まで活動が踏み込めなかったのは残念 ・使用しなくなった不明な物品の整理・廃棄の仕組みの確立が必要 ・活動が評価できるだけに、内容にもっと整合性のある対策が欲しかった ・現状分析からの目標設定が飛躍していた。丁寧に現状分析し、活動ポイントを絞り込み、分担して活動したら、もう数歩踏み込んだ活動となった ・廃棄物回収手順書を含め、院内物品管理の在り方の検討が必要 ・不要物品の解析から購入と廃棄を連動させる必要もある ・棚卸資産運用とつなげていくとよい
<p>★検査科</p> <p>『検査科受付業務の効率化』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな業務インパクトがある活動で、実現できたことはすごいです ・混雑が集中している時間帯を明確にして問題提起したこと、病院としての方向性を検討したことは意味深い取り組みだった ・外来待ち時間は患者さんからの声でも最も多いものであり、MQI活動テーマとしてふさわしい活動であった ・自分たちのできることは何かに集中して取り組んだことがよく分かった ・診療や会計など、他部署への刺激効果も大きかった ・感染症対応による業務が増加する中、業務を分散化し負担軽減につながる取り組みは良かった ・テーマと対策に少し違和感を感じたが、自部署でやれることと全体で取り組むことを取り入れ、仕組みを作り実践した 	<ul style="list-style-type: none"> ・対策立案で事前採血と電話受付振り分けが出てきたが、他に自部署内で解決できる効率化の対策はないでしょうか？ ・診察日前採血については、診察順番の優先などより明確に推進するための案内が必要 ・診察日前採血は病院に来る回数が増えるという患者負担の検討が必要 ・原因追求の特性要因図分析から手技や採血等フローの見直しが出てこなかったのはどうしてだろうかという疑問が残った ・意欲的ではあったが、診察日前採血の仕組み構築と運用にあたっての効果の検証が出来なかったのが残念 ・かなり患者/地域の病院利用満足にも関わるプロジェクトなので、病院ポリシーとの合意が必要
<p>★看護部</p> <p>『身体抑制開始後の評価を見直し、解除を目指す』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身体抑制削減という壮大なテーマに取り組んだ ・今回のようなテーマが時代背景的に重要性を増してきており、外部に向けて発信しても多くの興味を持ってもらえるテーマだった ・身体抑制解除への意識が高まった点を評価 ・活動を進めながら活動タイトルを変更したように、現状把握で問題の本質を考えなおし、活動を修正して取り組んだところが良かった ・抑制看護記録プレートの評価表がよくできている ・記録プレートの導入のような構造的なアプローチを適用したこと ・患者の尊厳を守るという目的で、「言うは易く行うは難し」そのものの活動を丁寧に多職種を交え仕組みを構築し、3階病棟で実績を上げ、今後の展開に希望を感じさせる内容であった 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、抑制の代替手段のアイデアや抑制の適応、種類の検討も必要 ・転倒骨折事例とそれ以外の軽微なインシデントを分けて、前者の検討を重点にお願いしたい ・全病棟で可能な対策を標準化してもらいたい ・この活動を継続し、院内の協力を得て、実際の抑制率の減少を目指して欲しい ・他病院の取り組み事例報告を分析して、今回の活動に取り入れられる対策の検討をしてもよかったのではないかな ・3階病棟に限定された活動だったが、他病棟の協力は得られなかったのか ・根本原因への対策となっていない（他の発表も同様） ・医師のアンケート結果の詳しい分析、説明が欲しかった
<p>★排尿ケアチーム</p> <p>『排尿ケアチーム活動報告』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・泌尿器科医師がチームを立ち上げ、その排尿ケアチームを率先して引っ張り、全体としてチームの各々がケアの向上に前向きに取り組むようになったところが良い ・泌尿器科医師のリーダーシップにより、精力的な新しい多職種による活動が始まったことが伝わった ・排尿ケア委員会の発足を契機に、泌尿器科以外の科への介入が増え、病院全体の尿道カテーテルからの離脱が増えたことは、医療の質向上そのものの成果 ・排尿自立支援に取り組んだ経緯とその成果を簡潔に発表しており、更に今後の発展を感じさせる内容だった ・排尿ケア加算の算定、活動実績も明確だった 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの立ち上げにより包括的排尿ケアができるようになった排尿ケアチームの活動で、現在、足りない点や更に取り組むべき課題はないか検討し、更に活動を広げて欲しい ・苦劳した点・工夫した点などを共有して新たなチーム作りのモデルとなってもらいたい ・この活動の伸びしろはどのくらいあるのか、現在の課題は何か、その課題を達成するために必要なことは何か、この点を発表してもらえたらよかった ・看護部として積極的に研修参加を勧め、チーム活動に貢献していきたい ・排尿ケア委員会の説明、医師、看護師、療法師の関わり方などの説明もあればよかった

★審査員紹介★

長時間にわたる審査をありがとうございました



【審査員長】
東宏一郎
内科科長
MQI推進委員



【審査員】
金内幸子
MQI推進委員会
副委員長



【審査員】
栗原直人
副院長



【審査員】
佐藤松子
看護部長



【審査員】
阿部哲晴
事務長



【審査員】
福本和美
副看護部長



【審査員】
尾藤誠司様
独立行政法人国立病院機構
東京医療センター
総合内科 医長



【審査員】
永井庸次様
株式会社日立製作所
ひたちなか総合病院
前院長



【審査員】
榎孝悦様
株式会社
榎コンサルトオフィス
代表取締役

各賞受賞チーム



優秀賞
【看護部】

最優秀賞
【紙削減有志チーム】

MQI推進委員会特別賞
【リハビリテーション科】

第27回MQI発表大会に関する総論的感想

株式会社榎コンサルトオフィス代表取締役 榎孝悦様



令和4年は、世界規模での新型コロナウイルス感染症との闘いが3年目を迎える中、ロシアによるウクライナ侵攻が世界経済、安全保障を揺るがす激動の年になりました。「非常時」、「平常時」という概念による情報が日常的に流布し、これまで縁遠かった世界の出来事、社会の出来事が自分事として身近な問題となりました。

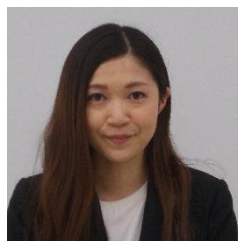
このことは、意識する・しないに拘わらず、第27回MQI発表大会の統一主題「価値観の転換—守るものと、変えるもの—価値観の転換」の選定やMQI活動自体にも少なからず影響があったと思います。第1回MQI発表大会が開催された平成8年（1996年）、米国の政治学者サミュエル・P・ハンティントンが『文明の衝突（原題「文明化の衝突と世界秩序の再創造」）』を刊行し、世界的な政治的影響力、相対的な軍事力、繁栄や経済力、人間、価値観や文化、領土などにより、文明化と文明化との衝突が発生すると指摘しましたが、MQI発表大会の歩みとともにその憂いが現実化してきたこととなります。「非常時」の特別な対応と思っていたものが現実化し、継続することは苦しいことです。出口が見つからないと希望が持てない、何を目標にすれば良いのか分からないということになりますが、「非常時」も「平常時」も連続して捉えて、27年もの間、MQI活動を実践・継続している皆様方に改めて敬意を表します。

「価値観の転換」とは大なり小なり、自覚する・しないに拘わらず内面的に起こるものですが、それを具体的活動に転化するには大きな溝があります。「分かっているけど」云々であり、このことは私たち個人個人にも日常的に問われていることです。

私は、発表前の皆様方の活動テーマを拝見した時、正直あまりピンときませんでした。どこに「価値観の転換」があるのか、何か本質を見落としているのではないか等の感覚を持ちました。もっと大層な立ち位置からの活動を想定していました。しかし、そこは流石の練馬総合病院のMQI活動、現実を見て、現場からの立ち位置で活動に取り組まれており、それぞれに成果を上げられたと思います。但し、「今後の検討課題」について「価値観の転換」後を見据えた発展性のある内容を期待していましたが、少し堅実すぎる内容になっていたと思います。対面での活動がほとんどできなかったと所見を述べられているチームがありましたが、MQI活動の要素に対面での活動が重要である証だと思えます。守るものと、変えるものの選別も実感できたコロナ禍での活動、変えざるを得ない仕組みの中でも大事なものは何か（練馬総合病院の理念とMQI活動）も想起させていただいた発表大会でした。

令和4年9月30日現在練馬総合病院の常勤職員の方は400名を超え、非常勤職員の方を加えると541名になると聞いています。3年間のコロナ禍でも継続したMQI活動を礎に、第28回MQI発表大会に向けてより多くのチームが結成され、益々（飛躍的な）発展されることを祈願しております。

会場の様子



第1部座長
北島 絵里佳
(栄養科)



第2部座長
中尾 英一
(内科)



総司会
近藤 拓也
(医事課)

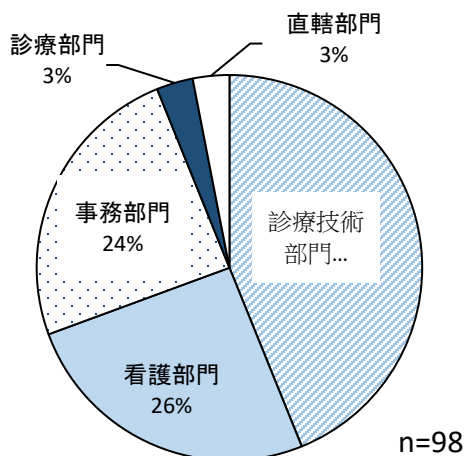


MQI推進委員会

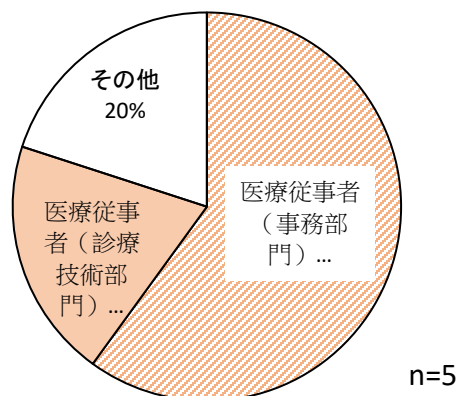


MQI 発表大会アンケート集計結果 (回答数106名)

あなたの所属は？(職員)

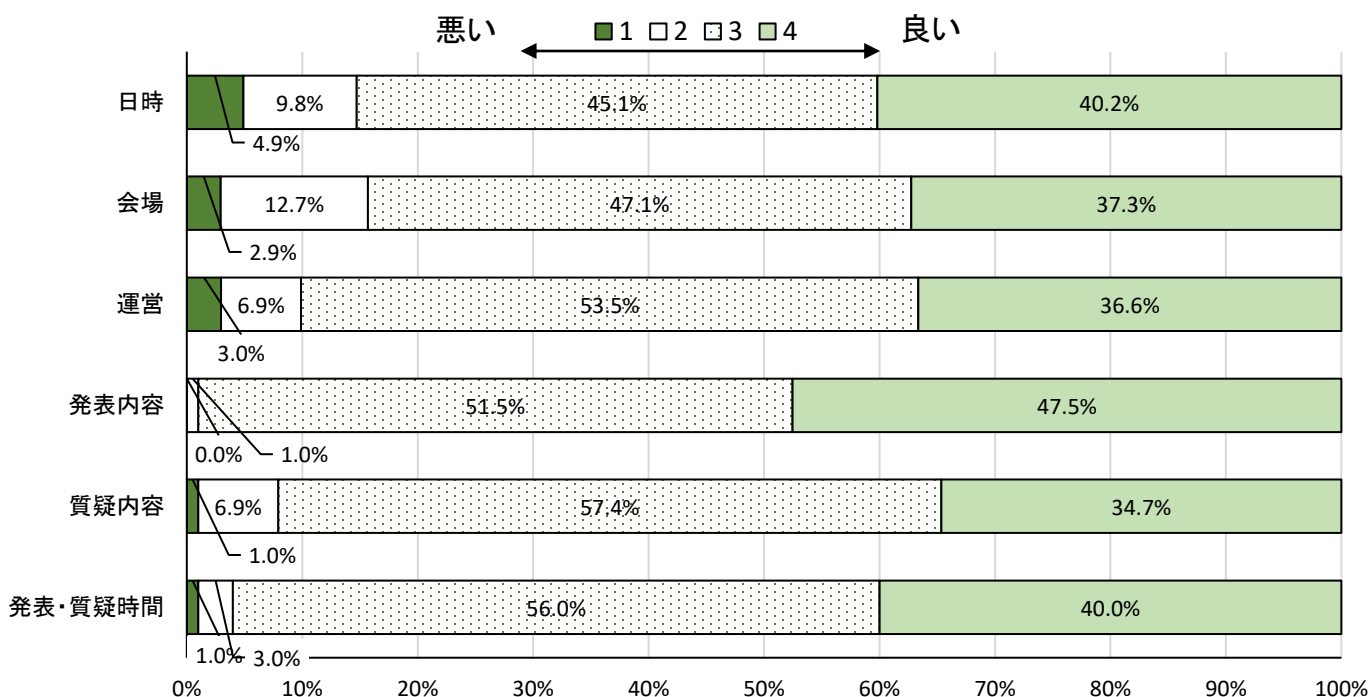
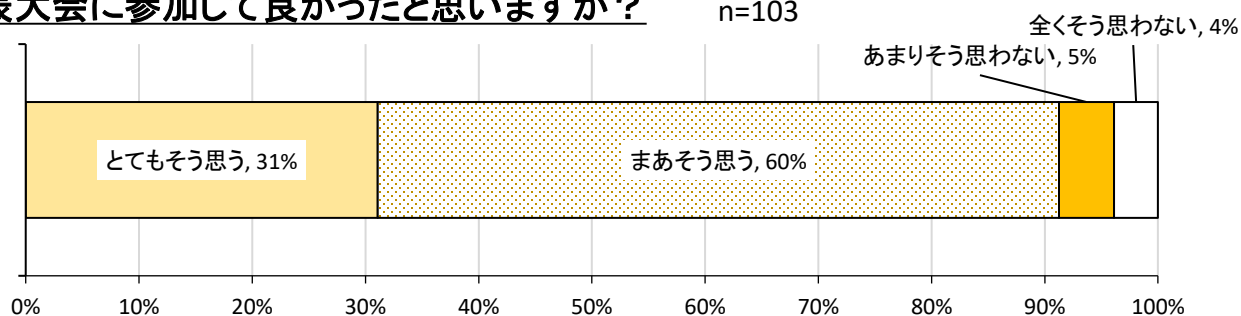


あなたの職業は？(当院以外)



発表大会に参加して良かったと思いますか？

n=103



良かったと思うチームは？ (最大3チーム選択 1位:3点、2位:2点、3位:1点として集計)

	院内	院外	内外合計
1位	紙削減有志チーム	紙削減有志チーム	紙削減有志チーム
2位	リハビリテーション科	リハビリテーション科	リハビリテーション科
3位	看護部	看護部	看護部

MQI発表大会に参加しての感想（一部抜粋）**【当院職員】**

- ・初めて参加しました。発表の実際の間を見られて良かったです。
- ・長期のプロジェクトがあっても良いと思います。
- ・活動の表面と裏側を知り、答え合わせができた尾藤先生の講演はおもしろくとても参考になった
- ・今後、自身でも業務改善に取り組みをしていきたいと思いました。
- ・自分自身も患者さん・病院に貢献できるように頑張ろうと改めて思いました。
- ・他職種で困っていることを聞くことはないのでもおもしろいと思った。患者さんがよくなっていくことにつながるため、良い活動だと思う。
- ・自部署で仕事をしているだけでは気づくことのできない改善活動について知れたことが嬉しかった
- ・各チームの活動がよくわかる ・自部署が関わっていないことも知れて良かったです。
- ・各部署が病院をより良くする取り組みについて知ることができたので良かったです。
- ・今回特別講演を聞いただけでも参加した価値あります。
- ・活動メンバーたちがそれぞれ頑張っていました。若い職員が頑張っていてこれからの病院の発展に寄与できると思います。
- ・MQIは仕事のうちといいますが、それならなぜ休みを使って参加しなければならないのか疑問です。それだけで士気の下がっているスタッフもおり、いかに素晴らしい活動とつたっても浸透していない部分があります。
- ・クオカードもらえるので ・MQIは業務ですよね？クオカード1枚のみですか？

【当院以外】

- ・毎年、内容だけでなく、チーム名を楽しみにしています。
- ・いつも勉強させてもらっています。参加することで、自院でも活動しかりしないと！という気持ちになります。
- ・当院も改善活動を始めているが、皆さんの取り組みを参考に、実のある活動をすべく取り組んで行きたい。
- ・MQI活動の創設に関わった者として、コロナ禍にも負けず開催されたことが何より嬉しいです。なお、今回は事前にプログラムの送付がなかったことは残念です。残部があり、送って下されば幸いです。ご面倒ですがよろしく願いいたします。
- ・なんとなく手つかずになっていた問題点に切り込む点が多かったので、ありがとうございます。

今後MQI活動を継続的に実施していくために必要な配慮や工夫（一部抜粋）**【当院職員】**

- ・ZOOMの活用は大変良かったです。当日の参加がしやすいです。また来年もしてほしいです
- ・zoomなどの使い方に慣れていない方がまだいて雑音が入るので周知に工夫が必要になるかと思えます。
- ・2年に一回にしてさらに質を向上させるべき頻度が高く質を保てるか疑問なことがある
- ・MQIで業務の円滑化、管理の徹底化をするとやらなければいけない業務が増えます。今後、その増えた分他業務を減らす流れもほしいです。
- ・設営に関してですが、後方席で画面が見やすくなれば良いと思いました。
- ・MQI活動の業務負担が大きいため、業務量の調整ができると続けられるのではないかと思います。
- ・年々参加する部署が少ないので、各部署から基本的には参加するような仕組みを考えていただきたい。
- ・発表スライドを提出して、内容を事前に確認するタイミングがあるのであれば、統計学上の問題などは前もってチームメンバーにコメントできればいいのではないかと思います。
- ・質問する方が限られていたような気がします。事前に冊子が配布されていたら（もしくは内容を見られるようにコメディックスで共有）されていたら、他の方も質問しやすいのかなと思いました。
- ・ほめてのばす。 ・寒くない季節が良いと思いました。
- ・医師も活動してはいいかでしょうか。・Drも活動に入るべき。Drのチームがあってもよい。
- ・残業時間は全てに残業代が出るべき。
- ・医師がリーダーになれば絶対的によいという話は他職種は尊重されないと思ふ不快だった。
- ・MQI活動の結果の業務改善されたことを特集を冊子などで簡単に見られるようになる。
- ・医師や来賓、役職者でない人間も質問しやすい環境をつくること、二回発表するでもいいかも。メンバーでない職員から良い意見がもらえるかも。
- ・チームの意向を尊重してあげてください。進め方やスライドの作り方など具体的にアドバイスをしてあげてください。あと、全員参加（強制）にした方がいいと思う。一般職ほど出ていない（会場に）。MQIが大切なことだとずっと認識できてない。

【当院以外】

- ・リモートも準備されていて、なにも要望ありません。
- ・参加させて頂くだけで有難く、ただただ勉強させて頂きたい。
- ・以前から見難いと指摘していた発表画面に、今回は大分工夫がみられ良かったです。MQI活動は、発表が大事な場面です。画面もさることながら、話し方も大切です。間の取り方を学ぶだけでも、聴く側に好印象を与え、評価も高まると思います。これも、以前から提案していることですが、過去の発表内容のその後の経過報告を是非伺いたいです。今回も、引き続き発表内容を深掘りしていきたい旨の発言がありました。何年前の発表でも構いません。MQIは、発表後からが真の活動であると、誰かが言っていたような。試みに今回の5題の内から1件、継続発表のような形で取り組んでみたいかがでしょう。あまり古いと聞いている方も忘れていないかもしれない。よろしく願います。

職員のZoom参加を取り入れたこと、特別講演については好評でした。
推進委員会ではいただいたご意見を真摯に受け止め、今後MQIを持続させるために役立てていきます。
皆様ご協力ありがとうございました。